



タイ・バンコクから飛行機で2時間、マレーシア・クアラルンプール国際空港に降りた。高速道路に入ると、日本車を目にする事ができるが、それ以上にマレーシアの国産車「プロドゥア」や「プロトン」などのコンパクトカーが多いことに気付く。その両サイドには、パームツリーの畑が続く。こうした光景を見ることで、「マレーシアにきた」とが実感できる。2年ぶりにマレーシアを訪れたが、大きく変わったのは最低賃金。2年前は月額15000円(約5万1000円)であったが、今年2月には17000円(約5万8000円)となり、13%上昇した。これは、タイの水準と比較しても遜色なく、日系企業にとって、人件費負担

豊かさ見せるマレーシア

豊かさを見せるマレーシアクアラルンプール市内



が重荷になることが予想される。変わらないのは、電気自動車(EV)の普及が遅れていること。短い滞在期間であったが、EVを目にしたのは米国産の1台だけであった。EVの普及のため、マレーシア政府は道路税の優遇措置を講じているが、同国は石油産出国であり、ガソリンは1リットルあたり2・

5リットル(約85円)と、コンビニで買うペットボトルの水よりも安い。充電機器などの設置も遅れており、高価なEVを買うには慎重になることも理解できる。クアラルンプールの商業施設を訪れてみた。ビジネスマンや学生たちが行き交う光景を目にするのと「にぎわい」よりも「豊かさ」を感じた。ヒジャブ(イスラム教を信じる女性が覆う布)で頭や身体を覆った女子学生が、ポップマートの袋を持ちスイーツ店に並ぶ姿は、私がバンコクで見える光景と変わらない。国や宗教は異なるものの、浸透する文化

には共通点が多いと感じる。2024年にタイを訪ねたマレーシア人は495万人で、マレーシアを訪ねたタイ人は164万人。両国の人の往来は、それぞれの観光産業にも貢献している。街のシンボル「ペトロナス・ツインタワー」を訪ねたが、「ヌン・ソン・サーン」(日本語でワン・ツリー・スリー)と大きな声で写真を撮っているタイ人にも出会うことができた。

昨年12月にタイとマレーシアは、ゴム、観光、ハラル、デジタル産業、エネルギーなど多分野で経済協力を強化することで合意しており、今後、両国の関係強化と経済発展の相乗効果に期待が持てる。年内には、クアラルンプール・バンコク間の直通列車が復活すると言われているが、その列車に乗り、車窓からパームツリー畑を眺める日を楽しみに待ちたい。(岐阜信用金庫バンコク駐在員事務所長 高橋英孝)

タイとの関係強化期待

には共通点が多いと感じる。

2024年にタイを訪ねたマレーシア人は495万人で、マレーシアを訪ねたタイ人は164万人。両国の人の往来は、それぞれの観光産業にも貢献している。街のシンボル「ペトロナス・ツインタワー」を訪ねたが、「ヌン・ソン・サーン」(日本語でワン・ツリー・スリー)と大きな声で写真を撮っているタイ人にも出会うことができた。